

令和7年度 第3回小淵沢地域委員会会議録

- 1 開催日時 令和7年12月3日(水)
午後5時00分開会～午後8時50分閉会
- 2 開催場所 小淵沢総合支所会議室
- 3 参加委員 藤代富美男、宮沢俊彦、仁科浩一、小黑晃、中山宏樹、茅野博文、
茅野キヨ子、今井一夫、佐野恭子、藤原真理、小林努、菊地勝、深澤久
- 4 欠席委員 岩波信司、坂本秀樹
- 5 事務局員 小淵沢総合支所長 渡辺美津穂、地域市民課長 吉田武
地域市民課市民担当 本荘有
- 6 議 題 (1) 令和8年度予算使途提案事業予算について
(2) 地域委員会連絡協議会での連絡事項等について
(3) その他
- 7 公開・非公開の別 公開 ・ 非公開
- 8 傍聴人数 0人
- 9 署 名 署名委員 11番 _____
署名委員 13番 _____

1 開会

2 会長あいさつ

本日は令和8年度予算使途提案事業の審査を行う。慎重審議をお願いしたい。

3 小淵沢総合支所長あいさつ

ここ数日新聞に小淵沢関連の記事が多く取り上げられており、改めて注目が高い地域であることを実感している。地域の活性化は地域の盛り上がりがあってこそ、と思う。本日の申請者は地域の活性化を目的に様々な事業を提案していただいている。内容の審査をよろしく願います。

4 議題

(北杜市地域委員会設置条例第8条2項の規定により、会長が議事を務めることとしているため、藤代会長が議長を務め議事進行。)

(議長)

議長を務めさせていただく。委員の皆様にはスムーズな議事進行となるよう、ご協力をお願いします。この会議は、北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱第3条公開の原則に基づき開催されている。本日の傍聴者はいないのでそのまま進める。公開という形で進めることでよいか。

(委員)

異議なし

(議長)

次に、議事録署名人の選出を行う。藤原真理委員、菊地勝委員をお願いします。

(1) 令和8年度予算使途提案事業予算について

それでは、議題(1) 令和8年度予算使途提案事業予算について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

事業計画者から事前に提出された計画書の確認をお願いしたい。「ボランティア活動助成事業」と「馬のまち活性化協会」から追加資料の提出があったため、配布している。また本日岩波委員と坂本委員は欠席ということで坂本委員からの意見について資料を配布している。

予算使途提案事業の説明については、各事業5分程度で事業者から説明があり、その後5分程度質疑応答となり、1事業で10分ということで進めていきたい。1事業の説明後、審査票を用いて審査し、その都度回収し集計していくのでよろしくお願ひしたい。

(議長)

日程表にもあるが、約3時間以上はかかることが予想されるがよろしくお願ひしたい。

(「久保大和神楽保存事業」について、事業内容、予算について説明者が説明)

(説明者)

地域委員会からの補助により活動に生かすことができた。保存会としてもありがたく思っている。31人が登録されており活動している。来年ならではの事業として7月1日に八ヶ岳観音平で八ヶ岳開山祭に向けて神楽を奉納する。7月の最終日曜日に総会を行う。9月上旬から下旬にかけて北野天神社において秋季例大祭奉納のための練習を1日おきに行う。10月3日に例大祭準備、10月4日に例大祭当日を迎える。また通年で北野天神社において笛、太鼓、舞の自主練習を行っている。子供神楽練習会もある。子供神楽については保存会としても力を入れている。加入している子供は久保地区以外にも本町地区の子供も加入するなど、地区を超えて広がりつつある。収支予算については、支出の部でクリーニング代が大きなものを占めている。保存会を取り巻く現状と課題は、保存会は神楽を保存・継承するということ、保存会自体を存続すること、予算を確保することが大前提だが、担い手不足に直面している。このような中、すずらん祭りで子供神楽を披露できたこと、10月には北杜市を代表して韓国抱川市で神楽を披露したことなど、大きな成果としてあげられる。来年度はより充実した活動につなげていきたい。

(委員)

伝統芸能は地元で長年受け継がれてきたものだと思うが、地元の人以外の人に入ってもらえることについて、地元の理解が得られているものなのか。

(説明者)

活動方針として、原則を重視するとともに新しいことにも挑戦していく、ということがある。原則とは氏子総代の役員の考えやこれまでの伝統を重視することだが、同時にそれに縛られ過ぎることなく、今の時代に合った考えを持つメンバーの受け入れや時代の要請を受けた活動を行っている。

(委員)

クリーニング代について、年間で衣装はどのくらい着て行うのか。専門的な装束のため費用がかかるのか。

(説明者)

奉納時に着用する衣装については、例大祭当日のみの使用である。衣装の重み・伝統があるため、普段その衣装を着ることはなく、クリーニングに出せないため虫干しをしている。クリーニング代は衣装の下に着る白襦袢、足袋、帯などである。これらについては練習時も着用している。

(委員)

10月末までの活動となっているが、7月と10月と総会を2回行うのはどのような意味があるのか。

(説明者)

7月は年度初めの総会で、10月は臨時的な総会で主に例大祭についての話題となり、来年度に向けての話し合いとなる。

(委員)

総代と話をしたときにすずらん祭りへの参加はいい返事がもらえなかった。様々な行事への参加や地域以外への参加も認めていただくようお願いしたい。

(説明者)

神楽は北杜市指定の無形文化財となっている。宗教としての神楽ではなく文化財としての神楽を市に認めてもらったものである。地域委員会の補助についても文化財としての神楽への補助としてお願いするものである。

(「淵の音太鼓保存事業」について、事業内容、予算について説明者が説明)

(説明者)

今年度も昨年度と同様の金額で計画した。毎年6、7月に小学校3年生を対象に親子学習会を開催し、5～6年開催している。8月には復活して恒例となった地域の活性化イベントであるすずらん祭りに淵の音太鼓も練り込み囃子で参加している。親子学習会を経た小学生10名程が参加した。10月に小淵沢地区の文化祭、1月にスパティオ小淵沢で毎年正月のイベントを行っている。スパティオ30周年のイベントも予定されている。収支予算の内訳として一番多いものは活動費で練習時の飲物、出演時弁当等である。車両代については、太鼓の運搬にトラックを借りて参加している。整備費はバチや台の修理費である。その他保険料などである。

(委員)

太鼓を教えてほしいと希望があった際に教えに行ってもらえることができるか。

(説明者)

平成3年10月23日のふるさと創生事業から太鼓が始まり、それから34年が経過しているが、伝承するということが目的であるため、そういった方がいれば一緒に太鼓に触れていただき、興味を持ってもらい、活動に参加してもらいたいという流れは続けていきたいと考えている。

(委員)

その際の指導料はどのような形になるか。

(説明者)

ケースバイケースだが指導料ということではなく、謝礼としていただくことはある。拘束時間が長い場合は、弁当等を出してもらえれば十分かと思っている。相談いただければと思う。

(委員)

「バチ購入」とあるが、どのくらい使用できるものなのか。

(説明者)

木の質等にもよるが、一概にいけない。

(委員)

太鼓の革などはどうか。

(説明者)

太鼓の革は3年前に宝くじ助成金を活用し張替えを行った。30年使用し始めて張替えた。雨で劣化するので雨のときには出演をお断りしている。太鼓を支える台の車輪が消耗品なので、2～3年前に直した。少しずつ修繕しているのが実情である。

(委員)

「出演謝礼」とあるが、固定的に謝礼がもらえるものがあるのか。

(説明者)

正月のイベント、ホースショーや市のものはある。

(委員)

「技術向上研修費」は具体的にどのようなことを行うものか。

(説明者)

太鼓指導者の謝礼としてのものである。

(委員)

団員は何名か。

(説明者)

8名で演奏にはぎりぎりの人数である。

(委員)

すずらん祭りの練習を拝見し高校生とのコラボを行っていたが、これからも行うのか。

(説明者)

高校が率先して参加してくれている。今の先生がいる限りは続けられるのではないかと考えている。また盛り上げてくれるチームがあるとよいと思う。

(「ボランティア活動助成事業」について、事業内容、予算について説明者が説明)

(説明者)

平成30年度から同額で推移している。ボランティア団体3団体協力していただいている。小淵沢町内のボランティア団体の育成と食生活改善推進委員会の活動助成を行っている。ボランティア協力団体の連絡会議、視察研修の実施、研修会への参加などを実施している。やまぼとの会16名、たんぼぼの会15名、食生活改善推進委員会48名となっている。高齢者への弁当作成をお手伝いいただいている。ボランティア協力団体ではデイサービスへのボランティアやバザーを行ったりしたと聞いている。研修についてはコロナ禍では実施できなかったが、昨年度は長野県への研修を実施した。

(委員)

研修について、どの程度の回数を実施しているか。参加実態はどうか。食生活改善推進委員会以外に活動費は出していないのか。

(説明者)

活動費は出していないが研修を補助している。研修は年1回実施している。昨年は長野県の味噌工場、かんでん工場の見学を実施した。参加者は20名前後であった。

(「給食サービス事業」について、事業内容、予算について説明者が説明)

(説明者)

一人暮らし高齢者の安否確認、栄養の改善を目的に給食を配達する。6月から翌3月までが事業期間で、月2回実施する。市からの受託が6月と7月の4回、8月から3月の16回を地域委員会の補助でまかなっている。月2回のうち1回を業者、1回をボランティアの方に作っていただき、各地区の福祉部が配布している。対象者は、民生委員が調査した80歳以上の一人暮らしの方で、今年度歳末助け合いの贈呈品を配布する対象者と同じであり、160名が対象である。令和7年度での配食希望者は76名いるが、今年度は65食で申請した。入院やショートステイなど不在の場合があり食数は毎月60食前後となっている。こここのところ退院された方や急に一人暮らしになったという方、冬場で再開してほしいという方などで増えてきている。このため来年度は70食を目安に申請を行いたいと思っている。業者の配食値上りや米や野菜の値上りで食材費が値上りしている。弁当箱はコロナ禍前に購入したものが在庫であったが、来年度は購入したいと考えている。平成30年度は最大36食であったが、現在は60～70食となっており、高齢者が増えていることや食材費も高騰して

いるため、増額で申請している。

(委員)

冬場に再開してほしいという話があったが、支給する基準などはあるか。

(説明者)

4月1日で80歳以上で一人暮らしの方を対象としているので、基準を満たしていれば対応する。

(委員)

市からは4回、地域委員会は16回ということだが、他の町の状況はどうか。

(説明者)

町により様々である。小淵沢においてもこれまでボランティアの方が20回全て作ってくれていた。地区で行っているところもあると思う。個人負担をして業者が配達しているところもある。

(議長)

地域委員会連絡協議会においてもテーマとして問題になっている。

(委員)

月に2回配布していると思うが、どちらかがパンかおにぎりとなっている。

(説明者)

令和6年度は高齢者の人数が多く、予算が少なかったためである。

(委員)

配布は水曜日としているが、水曜日であると配る際に会社を休んで対応しなければならない。業者のものであれば土日に対応することはできないか。

(説明者)

土日であると、社会福祉協議会が対応できない。

(委員)

食生活改善推進委員会みたいに、生涯学習センターの2階で配布するということができないか。

(委員)

食生活改善推進委員会のボランティアの方も水曜日に休みと取得してシフトで各地区1名ずつ出てもらい対応している。前はボランティア団体ごとに対応していたが、今は協力して行っている。20回は無理であるということで、8回対応している。

(委員)

市からの受託分はどのように対応しているか。

(説明者)

業者の弁当で対応している。

(「地域福祉活動支援事業」について、事業内容、予算について説明者が説明)

(説明者)

各地区の福祉部活動の助成を行っている。福祉部において、配食時の声かけ訪問、地区福祉まつりの開催、地区研修会の開催、環境美化などの活動を助成している。

(質問なし)

(「こぶちっこ応援事業」について、事業内容、予算について説明者が説明)

(説明者)

地域委員会予算使途提案事業に採択され8年が経過した。子ども達の健全な学びの場を通して家庭学習の仕方や情操教育等を豊かにすることができている。この事業は小淵沢独自の事業となっている。小淵沢小学校6年生を対象に放課後、生涯学習センターのだんわ室において、月に2~3回子ども達が持ち寄った宿題や課題を教職経験者が子ども達に寄り添って指導・アドバイスをしている事業である。スタッフは小淵沢町内の教職経験者11名、事務局2名おり、事務局において毎月の開催日時のチラシの作成、予算の執行、年3回のスタッフ会議の運営を行っている。4月から3月まで年20回を予定している。昨年度は延べ192名の子ども達が参加した。1回に2人が当番となっている。

(委員)

児童保険だが、どういう範囲まで適用されるか。例えば子ども同士で喧嘩をして怪

我をした場合などか。

(説明者)

そういったことも含めて、中で何か事故が起きたときに、ということで対応している。公共施設ではあるが、学校から離れた中でのことになるので、私たちの責任ということで対応している。

(委員)

報償費は、事務局と教職員の参加に対してのものか。教職員は概ね3回分を計上しているということか。

(説明者)

そのとおりである。出席がなければ払わない、ということになる。

(委員)

スタッフ会議の3回の報償費ということか。

(説明者)

そうである。

(委員)

そうなる、会議費はどのような使われ方をするのか。

(説明者)

夏季の暑い時期のスタッフのみの飲物代等である。

(委員)

反省会等も含まれたものなのか。

(説明者)

それも含まれる。

(委員)

放課後児童クラブもあるが、参加資格等違いがあるのか。

(説明者)

6年生の子どもは放課後児童クラブからこぶちっこへ来る子もいる。放課後児童クラブ以外の子もいる。

(委員)

線引きがよくわからないのだが。

(説明者)

線引きは特にしていない。チラシを該当の学年に配布するので子どもが参加を判断している。

(委員)

どちらにいてもいい、ということか。

(説明者)

はい。

(委員)

ボランティアであり、他の事業でも報償費を計上していないが報償費を計上しているのはなぜか。

(説明者)

市の場合、毎年夏と冬に中学生を対象に「北杜学び舎」という事業があり、これにもお金は出ている。小淵沢だけこの小学生版ということで同じように行っている。

(「ガールスカウト活動支援事業」について、事業内容、予算について説明者が説明)

(説明者)

今年、こぶちさわすずらん祭りでゴミの持ち帰りの呼びかけ、熱中症予防のタブレット配布をしていたところ、活動をみて加入してくれた方がいた。また、大学進学で北杜市を出たスカウトが4月から北杜市が大好きで地域のためにということを考えて戻ってきてくれた。地域委員会の補助により充実した活動が行えており、このようなことに繋がっていると思っている。活動実績について、ガールスカウトだけでなく、地元の高校生を交えて地域のために活動していきたいということで、本町の高齢者の方々、八ヶ岳グリーンネットワークの方々と駅前の花壇作りを中心に行うようになった。すずらん祭りの協力についても例年通りゴミ袋の配布やゴミの持ち帰りの呼びか

け、熱中症防止の呼びかけなどを行った。花壇作りとは別に小淵沢駅の清掃活動も行った。駅を利用する地元の高校生に呼びかけ、高校生とともに構内の掃除などを行った。韮崎北杜青年会議所が行ったキャンプにも参加した。またお手紙プロジェクトとして毎年敬老の日の前後にお祝いを込めて手紙と少しの送りものをしていたが、体調を崩した隊員が大勢おり、プレゼントを作ることができなかった。12月17日の今年最後の配食サービスと新年1月7日の配食サービスの際にお手紙を添えて高齢者と交流を図りたいと思っている。

(委員)

1人加入したとのことだが、今何人くらいいて、そのうち小淵沢の子どもはどのくらいか。

(説明者)

「スカウト」と呼ばれる子どものスカウトは全員で10人である。そのうち小淵沢地区に住んでいるスカウトは3人である。保護者を含め子ども達の活動を応援するメンバーが15人おり、そのうち小淵沢の大人は3人である。

(委員)

花壇作りの予算は、本町の高齢者、八ヶ岳グリーンネットワーク、高校生と実施する際のものか。

(説明者)

小淵沢駅の2箇所に花壇を預かっている。タクシーが停車している道を挟んだところに花壇があり、地域委員会の補助金から支出している。本町の高齢者、八ヶ岳グリーンネットワーク、高校生との大きな花壇は、林政課のみどりの募金から支出している。またこの際のお茶等も地域委員会からの補助から支出している。

(委員)

スカウトの制服購入費用だが、制服は入ったときに購入すると思うが、毎年使うものなのか。新規加入分か。

(説明者)

育ち盛りの子どもが多く、サイズアウトしてしまう。着られなくなったものは着ることができる子どもや新しい子どもが入ってきたときに使うなど、無駄のないようにしているが新しく購入するための費用である。ガールスカウトの制服は、転売が禁止となっている。

(委員)

3名は小淵沢ということだが、残りの7名はどこか。

(説明者)

高根が6人、大泉が1人である。

(「子ども見守りボランティア事業」について、事業内容、予算について説明者が説明)

(説明者)

小淵沢見守りパトロール隊は、小淵沢の行政区から推薦された有志の30名から構成されている。事業内容は、通学路において年間を通して通学路にある交差点や危険個所で見守りや声かけをし、また児童生徒の様子及び地域の危険個所の状況を学校、北杜警察署、小淵沢総合支所及び小淵沢公民館などへ提供している。今年度は5月17日に小淵沢小学校で児童と見守りパトロール隊との対面式を行った。来年度も同様に行いたいと考えている。2月には生涯学習センターこぶちさわにおいて見守りパトロール隊、小淵沢小学校、北杜警察署等が一同に会し情報交換を行う予定である。予算については、保険料、郵送料、消耗品である。対面式では私たちを知ってもらう、ということで行う。日頃は交差点や各区の中の身近なところで小学生を見守っている。一緒に歩いている方もいる。それぞれができることをやっていたでいる。2月については、支所、派出所の方など交通安全担当の方と見守りパトロールと日頃気づいたことについて、安全に通学できるように意見交換を行う。

(委員)

保険料について、危険に遭遇する場面も想定される。保険の内容を充実してはどうか。保険の内容はどのようになっているか。

(説明者)

社会福祉協議会に保険を依頼している。怪我などは補償されている。それ以上の保険があるかはわからないが、メンバーが対象となっている。これまで保険対応はなく、安全に行っていたでいるが、何が起こるかかわからない。内容の充実等は未定だが、来年2月に情報交換会があるので、保険の内容について説明したいと思う。

(委員)

夏は高温が想定されるが、熱中症対策費用などは計上しなくてもよいか。

(説明者)

夏は夏休みもあり、それほどでもない。

(委員)

朝早くから夕方まで見守りをさせていただいてありがたい。話し合いなどを行う際の会議費などの費用はないのか。もしあれば計上してはどうか。

(説明者)

意見交換会は20人近くが参加した。意見交換の中で収支報告をし、皆さんに了解を得ている。

(「駅ピアノプロジェクト事業」について、事業内容、予算について説明者が説明)

(説明者)

小淵沢駅のピアノは2021年7月から設置し、約5年が経過した。目的としては新しい駅になり少し無機質だという声が聞かれ、何か音があれば駅を訪れるのではないかとところからの発想であった。演奏している人、聴いている人に会話が生まれてくるという効果を生んでいると思う。弾いている方はいろいろな方がおり、たまたま立ち寄った観光客も多いが、意外と地元の高校生や通勤帰りの方なども使っており、観光で人を呼ぶために置いた、というよりは小淵沢駅にはピアノがあるんだ、ということ町のひとつのアイデンティティーとして感じていただいているのではないと思う。山や水と同じように、ピアノがそこにある、ということが大事であり、大事なものがそこにあるという状態を維持するために活動を続けている。週1回程度日々の点検を行い、実際にピアノを弾いてみながら音の狂いや落とし物の確認、ツバメによる汚れがないか、など皆さんが気持ちよく弾いていただける、いいピアノがあるということを感じていただけるようメンテナンスを行っている。時々コンサートや利用時間などの問い合わせもあり、折り返し対応している。生のピアノであるため年2回調律をお願いしている。そこにある、ということが当たり前になってくると有難みが薄れてくるので、忘れられない程度に年に1、2回イベントができればよいと思っている。去年はプロのピアニストが公開リハーサルということでピアノデュオのコンサートを行った。またすすらん祭りと同日に市内のピアニストや高校の弦楽部などの演奏を行った。

(委員)

コンサート企画の費用は謝礼などか。

(説明者)

謝礼及びコンサート自体に関わるチラシ等の費用である。

(委員)

コンサート企画について、来年度はどのようなことを考えているか。

(説明者)

夏のコンサートが好評であった。すずらん祭りと同日とするとお互いに盛り上がるため、行っていきたいと考えている。時間はずらしたいと考えている。また駅前3箇所ですトリートライブを行う計画があり、駅ピアノも含まれているようなので、これについて一緒に行っていききたいと考えている。

(委員)

コンサートは無料で行っているのか。募金などは行わないのか。

(説明者)

無料で行っている。市の施設であり営利目的のものは行えない。

(「こぶちさわすずらん祭り事業」について、事業内容、予算について説明者が説明)

(説明者)

すずらん祭りは誰も知っている祭りであるが、大きく転換していることはあまり町民全員に伝わっていないと思う。祭りの理念についてどのように考えているか、ということについて話をしたいと思う。駅前商店街は200軒を超えるあらゆる業種が昭和20年代30年代では商店街にあったという記憶がある方もいらっしゃると思う。時代の流れとともに商店街がかつてのような賑わいは、直近ではあまり期待はできないという中で、すずらん祭りも昭和から40年を経て続けてきている祭りではあるが、コロナ禍で一旦立ち止まりをした。実行委員会でこの祭りはどうすればいいか考え、もう一度再生するためには商工会・商店街だけの祭りではなく、町全体の町民全員が楽しみにする祭りに復活させようということで1年間かけ討議をした。この町のアイデンティティー・大切にしているものは何かといったことをテーマとしよう

ということで、豊かな自然環境や森、清らかな水、清涼な空気、美しい山岳景観といったことは誰も否定しないものであるため、こういったものを前面に出し、再生していくこととした。コロナ禍が明け目的を新たに、実行委員会もかつての商工会有志の実行委員会形式を変えて数年続けてきている。コロナ禍が明けた第1回の祭りは、天気が良かったということもあったが、中学生・高校生が長時間集い、あの場に来てくれ、ここ3年程で賑やかな祭りに復活してきた。この流れをさらに全地区に、この町全体が祭りに期待する、楽しみにするという祭りにしていこうとしている。もちろん商業の活性化も視野にあるが、それ以上に町民の心がひとつになる祭りを理念として目指している。その中で自然環境も大事にしていく、人と人との繋がりも希薄になっているが大事していこうということが、祭りの理念である。すずらん祭りは小淵沢のアイデンティティーをもう一度考えられる場所にしたい、ということで今年は盆踊りを復活し盛り上がった。また子ども達が活躍できる場として子どもの発表の場も設けた。経済の活性化ということで本町有志の方が店を出し、地元の方の参加も増えている。

(委員)

委託費としてバス運行にかかる経費が計上されているが、バスの利用状況はどうだったか。

(説明者)

今年は約240名が利用した。委託費はバスの運行経費でそのほかバス停の設置やバス停のデザイン、タイムスケジュールについては自己資金である。駅前是非常に駐車場に乏しいことから、気軽に足を運べるようバス運行の提案が出た。予算がなく、とてもバスを運行できる状況ではなかったが試しに運行したところ、意外と乗車してくれた。これが毎年続けることにより、多くの方が集えるということで今回お願いした。

(委員)

バスの利用状況を見て、今年も続けることとしたのか。

(説明者)

バス停は基本的にスクールバスのバス停ということで、子ども達にもわかりやすかったのではないかと考えている。

(委員)

数年前まではすずらん祭りは商店街の祭りで他地区は関係ない、という意識であった。バスを運行したことは画期的だと思った。バスを回すことにより小淵沢全体の祭りにレベルアップしてきたと思う。私もバスに乗ったがすずらん祭りに関係なく観光客が乗ってきたりした。

(説明者)

町全体の祭りにしていくという目標は、ホースショーでもそうだったが、各地区からいろいろな出店や発表などをしていただけるようにしていきたい。そのためにはまず来ていただく、知っていただく、関心を持っていただくために、バスを一つの象徴としていきたい。

(「小淵沢駅イルミネーション整備推進事業」について、事業内容、予算について説明者が説明)

(説明者)

現在も点灯中であるが小淵沢駅のイルミネーションの整備推進ということで、現在のものを拡張し、より小淵沢を印象付けるところを目指している。以前小淵沢商工会が行っていたときのイルミネーションもあり使用していたが、電球のもので切れているものもあったことから廃棄した。また寄付していただいたものもあったが老朽化のため廃棄した。まだフェンスが空いており、スペースがあることからお願いしたい。

(委員)

どのようなイルミネーションなのか教えてほしい。

(説明者)

上から吊るすナイヤガラタイプ、いろいろな長さで上から下に吊るすツララタイプ、1本になっているロープタイプなどを組み合わせている。

(委員)

維持費はどのように考えているか。

(説明者)

電気は市から供給を受けている。修繕費については今後出てきた際にお願いしたいと考えている。

(委員)

仮に来年度は整備が揃い、維持費だけということになるのか。

(説明者)

それもある。

(委員)

毎年増えてはいるが、前の通りが暗いのももう少し増やしてはどうか。見た方からよくなったという声は聞いている。

(「小深沢川遊歩道活性化事業」について、事業内容、予算について説明者が説明)

(説明者)

小深沢川は県の馬術競技場の横を流れている川で、支所の東側も流れている。小深沢という名前は通称で、古くに呼ばれていたようである。遊歩道は川の上流の大東豊北通りから小深沢川沿いにゴルフ場までの約700mの遊歩道である。この遊歩道は、地元の散歩や散策の場になっており、また周辺はペンションや民宿が多くあるため、宿泊者の散策の場にもなっている。小深沢川遊歩道の経緯としては、昭和59年に大東豊区長と当時の小淵沢町長との間で「土地を無償で町民・観光客等の自然景観散策の用に供する」という覚書が交わされ、工事が始まり遊歩道として整備された。約10年後に小淵沢地域ふれあい公園整備事業により、下草刈や雑木の整理、ベンチや出入口の整地をした。その3年後にふれあい公園整備事業として、あずまやが設置された。その後ふれあい公園整備事業の助成金により、維持管理が続けられてきたが、小淵沢町が北杜市に編入され助成金は打ち切りとなった。しかしこの遊歩道は地元の人達が愛着を持って管理してきたことから、これまで有志のボランティアにより遊歩道の維持管理がされてきた。しかしボランティアによる管理が難しくなってきたことから、地元の豊畑組に維持管理を依頼し、豊畑組で了解され管理が移行された。令和4年以降は、遊歩道管理委員を置き、管理委員は豊畑組長の指示により遊歩道の管理及び外部との調整を行うこと、また当初の覚書の趣旨を活かし運営方針を定め維持管理をしている。豊畑組だけでなく近隣の方々がボランティアで協力するという姿勢はそのまま延長され、日常管理は「この指とまれ」、季節の管理は「その手を借りたい」ということで案内を出し、それに基づき参加を求めているという形で進んでいる。今回、活性化のために大東豊区豊畑組と遊歩道管理委員を統括する形で「活性化委員会」を作った。令和8年以降、この形で活動していこうと考えている。

(委員)

杭はどのように使うものなのか。

(説明者)

階段であったところを坂道に整備したりしているが、その場にある木を使い土留めとするため、杭と枕木を使い耐久性のあるものにしていきたいと考えている。

(委員)

町民の方々に遊歩道があることを周知し、利用できることをお願いしたい。

(説明者)

毎日メンテナンスで行くがいろいろな方が利用しており、行けば必ず誰かがいるというような状況で使われてはいる。

(委員)

今まで水害等の被害はあったのか。

(説明者)

赤道が沢を渡っている箇所がある。大きな雨が降ると土砂が流れることがある。小規模ながらいろいろなところで起こっている。2～3日経って急に水が流れてくることがある。急に来た水に流されるという危険はある。注意をすることと、逃げられる場所を作りたいと考えている。

(委員)

今の話を聞き、区としての取り組みはしないのか。

(説明者)

大東豊区の費用の中で行っている部分はある。ただし、こうしたことについては各組が財政的にも持ちながら行っている。そうしたことから一番身近な豊畑組ができることを行ってきた。

(委員)

合併により助成金が打ち切られたとのことだが、新たな申請等は積極的に行ったのか。

(説明者)

当時携わっていないのでわからないが、お願いはしたと思うがそれがうまくいかな

かったので、思いのあるこれまで関わってきた方々が自分達でやってきたものと思われる。

(委員)

防災面での対応が必要であれば市に申請するのも必要なことではないか。

(説明者)

そのように思う。

(「馬のまち小淵沢ルール」の作成、啓発事業)について、事業内容、予算について説明者が説明)

(説明者)

「馬のまち小淵沢」のルールを作りたいと考えている。小淵沢のブランド価値を高め、持続的発展に寄与すること、人と馬が安心して共存できる明確なルールとマナーを整備していきたいと考えている。観光客の増加、乗馬体験の多様化により馬と地域の方々、訪問者との積極機会が増えてくる。そうした中で安全面や環境の整備、事業者間の協働を促す共通基盤が求められており、地域の馬に関係する事業者や生活している方々との合意形成を図りながら、そのルールを考えていきたい、と考えている。ガイドブックやSNSなどでしっかり情報発信をしていきたいと思っており、それが地域環境の実現に繋がるのではないかと考えている。事業内容は、来年4月からルールを検討する。1か月程でルールを作ったところでロゴマークを作り情報発信をしたい。またリーフレットもしっかり作りたい。WEB・インターネット・スマホで見られるようなSNSの媒体の3本立てで、8月くらいにはリーフレットが配布できるようにしていきたい。予算としては、ロゴマーク制作、リーフレット作成、WEB関係と、リーフレットは5千部配布する予定で考えている。ルールのイメージは、場外を馬で歩くことを外乗というが、外乗を安心・安全に楽しめる環境を整備していきたい、そして地域住民と馬や乗馬を楽しむ方々が共存できるものを進めていきたい、ひいては、「馬のまち小淵沢」としてのブランド価値の向上ということで、例えば乗馬を楽しむ方々のマナーとして、ヘルメットをかぶる、道に落ちている馬糞の回収、私有地へ立ち入りをしない、などしっかりしていきたいと考えている。乗馬クラブに対しては管理者を置く、緊急時、例えば雷が鳴った際は外乗しないなどの緊急時の対応、職員の安全教育、初心者が乗る際の教育など、また交通マナーについては地域の皆様にもお願いしていくことになるが、馬を見かけたらクラクションなどの大きな音を立

てないことなどのルールを作りたい。みんなで共有することにより、「馬のまち小淵沢」がしっかりとした「馬のまち小淵沢」になれるよう今回提案した。

(委員)

検討会議を始めるとのことだが、会議に参加するメンバーはどういった方を想定しているか。

(説明者)

地域の乗馬クラブの代表者、住民の方で地域委員や地域の代表者、小淵沢総合支所など、行政、地域、馬関係の方々に入っていただきたいと考えている。北海道ニセコにおいてニセコルールを作りスキー場の安全と地域の活性化を図ったという事例がある。ニセコルールを小淵沢の馬版にしていきたいと考えている。

(委員)

ルールを作っていく上で、乗馬を楽しむためのマナーは、馬に乗る方、馬を職業とされている方が守るようになると思うが、そういった方は、ヘルメットの着用や馬糞の回収、私有地に入らないということはわかっていると思う。わかっていることに対し改善されるためには、新しい何かが必要なのではないか。

(説明者)

ペナルティーを科すなど、これから検討が必要である。

(委員)

今までと違う画期的なアイデアの検討が必要ではないか。

(説明者)

今までのままであると、馬のマイナスイメージもあると思うので、検討会でしっかりとアイデアを出していきたいと思う。

(委員)

地域の人たちが「馬のまち小淵沢」ということに関心を持ち始めているのは事実であると思う。県や市との関わりはどうか。なぜ今回申請に至ったか。

(説明者)

県が今年の3月に「小淵沢エリア振興ビジョン」を策定した。市においても今年8月に小淵沢振興ビジョンを実現する推進会議を立ち上げている。馬術競技場について

は県が整備をしていく予定である。市としては、馬術競技場からスケートセンター間の歩道整備や馬道の整備検討、電柱の地中化などを進めている。今回ソフト事業については、地域委員会の補助により、地域の方々が納得できるような馬のまちのルールを作りたいという整理をしているところである。

(委員)

「馬のまち活性化協会」は役職のある方々だが、事業計画を浸透させていくためには実務者によって行われていくのか。

(説明者)

協会の事務局において事務的なことは進めていくことになる。

(委員)

今回の費用はルールを作るために計上されているが、8年度のみ費用ということか。

(説明者)

8年度のみである。ここで一度作ってしまえば改正や見直しは自分たちでできるのでまずはここでしっかりと作りたいという予算である。

(委員)

活性化協会の会費等は別の費用ということか。

(説明者)

協会とは別である。

(委員)

今日の審査会は、町の活性化にどう関われるかということだと思うが、ルール作りがされることによって、小淵沢町にとってどのようなメリットがあるか。

(説明者)

首都圏等における「小淵沢」の認知度は低く、「八ヶ岳」の方が圧倒的に多いので、まずは小淵沢が表に出るために小淵沢の認知度を上げていくという県の計画があり、それに結び付けるために小淵沢の認知度を上げるための「馬のまち小淵沢」のルール作りが話題となった。馬に乗る方は特定の方しかいないのかもしれないが、その乗っている風景を観光客が観たりすることや、馬のまちということで集客をしていくこと

で県や市のビジョンに対し貢献できることが小淵沢の地域振興に役立つということで、県や市の目標と一緒に行っていきたいと考えている。

(委員)

認知度は数値化されているのか。

(説明者)

やまなし観光推進機構がアンケート調査した認知度があり、再度認知度を調査することとしている。

(「地域活性化活動支援事業」、「災害・除雪対策事業」、「地域活性化検討事業」「八ヶ岳ホースショーin こぶちさわ」について、事務局から説明)

(事務局)

「地域活性化活動支援事業」は、各地区に均等割40%、戸数割60%で交付している。地域の特色を生かし、自主性に富んだ活動を行うことにより地域の活性化を図るものである。

「災害・除雪対策事業」は、台風や豪雪対策ということで、塩化カルシウムや砂を各行政区に支給するものである。塩化カルシウムについては、今冬についても各地区に配布を行っている。

「地域活性化検討事業」は、地域委員会の運営費で地域委員会だよりの発行費用などである。

「八ヶ岳ホースショーin こぶちさわ」は、来年度についての実行委員会が開催されていないため未定であるが、ホースショーについては地域委員会と市の補助金で実施している。ホースショーの金額は大きく、昨年度も残額があったことから他の事業を採用にあたって調整が可能と考える。

これらの事業について、金額の調整については、事務局に一任いただければと思う。

(委員)

異議なし

(議長)

それでは審査票の集計に入る。ホースショーについては確定していないため、審査

は保留とする。

(暫時休憩)

(議長)

それでは再開する。説明をお願いします。

(事務局)

目的、特徴、効果、計画性で採点し、本日欠席の委員の点数も含めているが回答がないものもあるため、平均点で順位付けした。減額意見があったものは印をつけている。

(議長)

意見をいただきながら進めていきたい。

まず「久保大和神楽保存事業」について、意見はあるか。

(意見なし)

無いようなので、要望どおりとする。

(議長)

「子ども見守りボランティア事業」について、要望どおりでよいか。

(委員)

異議なし

「こぶちさわすずらん祭り」について、要望どおりでよいか。

(委員)

異議なし

(議長)

「馬のまち小淵沢ルール作成、啓発事業」について意見はあるか。

(委員)

今回限りと言っていたが、小淵沢地域委員会で補助する意味があるのか分からず、

採点できなかった。継続して小淵沢のために行っていくということであればよいが、冊子の作成に予算を使うのはどうか。県や市からの予算で対応してもよいのではないか。

(委員)

最終的にメリットがあることかもしれないが、もう少し地域に密着したような話だとよい。

(議長)

ではこの事業について減額をせずこのままでよいか。または減額した方がよいか。

(委員)

(減額多数)

(委員)

地域の人から出た要望ではないとしたら、地域委員会で補助するというのも違うと思う。

(委員)

リーフレット作成、配布ということであれば良いと考える。

(議長)

今回は補助しないでよいか。または補助対象とするか。

(委員)

(補助対象多数)

(委員)

ルールを作り、印刷して配布することは良いと思う。ロゴマークやWEBサイトは次の段階で良いのではないか。半額がよいと思う。

(議長)

半額以外であればどのくらいがよいか。

(委員)

10万円が妥当と思われる。

(議長)

10万円がよいか。半額がよいか。

(委員)

(10万円多数)

(議長)

10万円で決定したいと思う。現段階での協力については、限られた内容となるので金額はこの通りとする。先々必要があって協力できるところについては、協力していくという姿勢は維持していきたいと思うがよろしいか。

(委員)

異議なし

(議長)

「こぶちっこ応援事業」について、意見はあるか。

(委員)

私は減額はしたくないという意見である。減額するとすれば10%程度2万円で留めてはどうか。

(委員)

報償費があり、なお会議費も計上しているので、会議費が2万円程度とすれば5万円の減額でもよいと思う。

(議長)

減額について、2万円と5万円との意見があった。どちらが妥当か。

(委員)

(5万円多数)

(議長)

5万円の減額とする。

(議長)

「淵の音太鼓保存事業」については、要望どおりということでよいか。

(委員)

異議なし

(議長)

要望どおりとする。

(議長)

「ボランティア活動助成事業」、「給食サービス」「地域福祉活動支援事業」について、要望どおりということによいか。

(委員)

異議なし

(議長)

「ガールスカウト活動支援事業」について、意見はあるか。

(委員)

要望どおりでよいと思う。

(議長)

要望どおりとする。

(議長)

「駅ピアノプロジェクト事業」について、要望どおりによいか。

(委員)

要望どおりでよい。

(議長)

要望どおりとする。

「小淵沢駅イルミネーション整備推進事業」について、要望どおりによいか。

(委員)

要望どおりでよい。

(議長)

「小深沢川遊歩道活性化活動支援事業」について、要望どおりでよいか。

(委員)

要望どおりでよい。

(事務局)

令和8年度小淵沢地域委員会予算配分案を確認。

(議長)

議題(1) 令和8年度予算使途提案事業予算については、これで終了する。続いて

(2) 地域委員会連絡協議会での連絡事項等について事務局から願います。

(2) 地域委員会連絡協議会での連絡事項等について

(事務局)

委員からいただいた意見に対する回答の一覧が示されたので確認いただきたい。また会議の内容はメモを確認いただきたい。今後のスケジュールについて、1月14日午後2時から須玉ふれあい館で市政報告会が開催されるので、参加していただきたい。会長、副会長には1月26日に市長ヒアリングがある。本日決定した予算について市長に説明を行う。

(議長)

その他何かあるか。

(委員)

今年度の地域委員会は来年の3月31日までであり、1年間での一番大きな任務はこれからの地域委員会をどうするか、ということはこの地域委員会で考えよう、ということであった。会長にも連絡協議会で伝えてもらっているが、条例の問題は改正されない、ということではっきりしたということか。

(議長)

把握している範囲でお答えする。今後の地域委員会はどうか、ということで連絡協議会でも話し合いがされた。設置条例について変更はないという結論であった。人員構成については、表現は違うかもしれないが、各地域委員会の自主性を重んじるということであった。地域委員会の構成要員は団体の代表者、学識経験者、公募、市

長が認める者となっている。その比率を変えてもよいとの話であった。本来は小淵沢地域委員会を何回も開催し意見を集約したいというのが本音だが、今後どのように地域委員会を持っていくか、例えば団体の代表はやめ、ごく一部に限り、住民を代表するような区長会長や民生児童委員会長が入り、その他公募が望ましいとの意見や公募ではなく地域の代表を選んで地域委員を構成するという考えもある。現在までの話し合いではそこまで煮詰まった話はできていない。各地域委員会の自主性を重んじる、という話をされているので、本当は皆さんに諮りたいと思っている。最低条件としてだされているものは、16名以下ということで定員の数は決められている。ではいつ決めるのか、ということだが今年度のうちに地域委員会が決めたら来年1年かけてどのような選び方をするか、どのような構成にするか、について何回か議論する必要はあろうと思う。

(委員)

今日説明をしてくれた方も地域の活性化や地域を大切にしようということで話をされた。消防署、保育園、中学校の問題も何も話されない。地域委員会の役割として言わせてもらった。

(議長)

地域委員会の開催回数も少ないと思う。地域の問題点を考えてそれを把握した上でここに臨んで議論するという観点が、今の地域委員会には欠けていると感じている。連絡協議会ではそのような話をしたつもりだが、なかなか意見は通りづらかった。

5 閉会

(副会長)

長時間審議いただきありがとうございました。説明していただいた方も小淵沢を想う中でのものであったと思う。今後どのように進めていくかということについても協力して行っていきたいと思う。

午後8時50分終了